

6月14日
市政を変える

切りすてと削減の前・現市政を

本気で変える

おくい正美

民主市政の会
代表委員

略歴 / 1954年生まれ。府立水産高校卒。京都生活協同組合中丹支部等で勤務。現在 / 福知山地方労働組合協議会議長、京都総評副議長

合併14年、「こんなはずじゃなかった」の声があふれています。現・前市政12年で「老人会への補助が1人105円カットされた。高齢者の負担がふえた」「小学校、公民館がなくなりさびしい地域に。増えるのは鹿ばかり…」住民が減り、お店や工場も減り、農家は半減。前・現市政の責任は重大です。今度の市長選挙は、切りすてと削減の前・現市政の継続か、くらし丸ごと応援の市政に転換かが問われています。おくいさんで市政を本気で変えましょう。

おくい正美さんの活躍に期待します



福知山法律事務所
弁護士

宮本平一

おくいさんは、福知山地方労働組合協議会の議長として、派遣切りやパート雇い止め、パワハラやセクハラなど不安定雇用労働者の相談にのり、労基署やハローワークともつながって働き方や労働問題に長年取り組んでこられ働く人の生活もよく理解されています。また、子どもの就学援助の問題その他子どもの実情をよく深めておられることには感心します。

暮らしの何でも相談や中小業者の状況など、市民の願いをつかんで市への要請や請願行動の先頭にたってこられました。今後のコロナ対策にしても、すぐに市政に反映できる、実績と情熱と行動力のある心強い人です。

市民が主人公の民主市政をつくる会

20年5月17日号 発行 市民が主人公の民主市政をつくる会
福知山市昭和新町101の3

市民が主人公の民主市政をつくる会は上記の見解を
発表しました



京都地方労働組合
総評議会議長

梶川 憲

おくい正美さんが福知山市長選挙に立候補を決意されたと聞き、人間的連帯と地域愛、自治体ができること、やるべきことを知り尽くしている、この人こそふさわしいと心から拍手をおくります。

「現場を見てきた…」「一人の犠牲も出さない…」それは、福知山水害のときも、雇用の危機の時も、駆けつけた仲間やボランティアの前で、また、行政に対する要請の場で、おくいさんが繰り返した言葉でした。

おくいさんは、福知山地域の労働組合のリーダーとして、同時に京都総評副議長として京都府北部を見渡しながら、四代にわたる市長や市政に携わる皆さんの苦労と悩みに寄り添ってきました。「もっと救える住民がいる」繰り返し歯痒い思いを共有してきたおくいさん、出番です。



弁護士

福山和人

おくいさんは、働くものの連合体、地労協の議長として働く人、地元業者、市民の応援の仕事に長年続けてこられました。

綾部のトステムの工場が閉鎖になった時、急遽110番の相談活動をおくいさんといっしょに行いました。

あたたかな目線で市民に寄り添う姿勢をもつおくいさんだから、コロナで大変な時、地方自治体が市民のための仕事をする、それを託せるのがおくいさんです。

国の政治がポンコツでも地方自治体の長が決断すれば市民のためにできることはようけあります。

コロナなどで今みんなが困っている時に市民に寄り添い、しっかり助けるのがおくいさんです。

おくいさんを押し上げて市民の願いを実現しましょう。

困っている人にトコトンよりそう

おくい正美さん



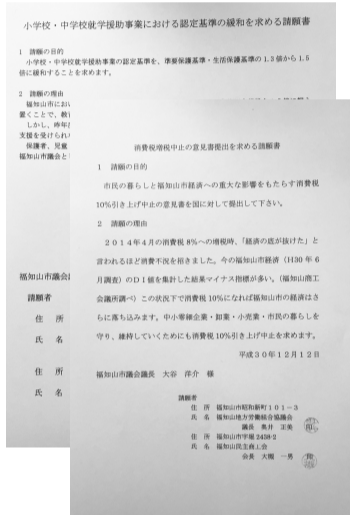
市民のみなさんのコロナ問題での困りごとの相談にのる福知山地労協、福知山民商、京都医労連主催の「暮らし・コロナ問題 電話『なんでも相談会』」が16日に開催され、おくいさんも相談者として参加しました。

地労協議長。暮らし・教育・地域経済など市民の願い届け続け20年

おくいさんは、市内各団体、組合のまとめ役の福知山地方労働組合協議会議長として、市民の要望をまとめ、歴代4市長や議会に提出。市民本位の市政づくりをめざし、その先頭にたってきました。

働くものの代表として市の各種審議会に参加し、市政をチェックするとともに建設的提案も行い、市民病院の建て替えの時には水の流れる場所の改善をもとめました。

水害の時は、団体からのボランティア支援や支援募金をとりまとめ、市との窓口をつとめ復旧と支援に全力をあげました。住民の幸せと平和を何よりも大事にする人です。



市民の願い実現へ議会請願

毎年の京都社保協キャラバンや「暮らしの何でも相談会」は、多くの人に参加をよびかけ、とりくみの輪を広げてもらいました。

医療や介護制度の学習会では、福祉施設や老人会や関係機関とも連携しながらとりくみを成功させるなど多くの知恵と力をあつめることのできる人。様々なとりくみの前には、ハローワークや労働基準監督署、長田野工業センターなどに実情を聞きにまわるなど、軽快なフットワークで行動する人です。

福知山の医療と福祉をよくする会
塩見 正

「困ったら、おくいさん」と評判ー230件をこえる相談

おくいさんは、市民誰もが参加できる「何でも相談会」を開催。過労死・解雇から年金や学費まで、230件以上の相談にのってきました。

相談者の話をトコトン聞き、「困ったことがあれば連絡下さい」と自分の携帯番号を教えるなど親身に対応。

生協のパートのまとめ役として人の話をよく聞いてくれる相談しやすい人でした。損得なしで動き、みんなから信頼されていました。

元同僚 花城マサ子

リーマンショックで長田野で800人も派遣労働者が解雇された時も故郷に帰る人や京都に残る人、それぞれの悩みを聞き、ハローワークや社協と連絡もとり生活保障に力をつくしてきました。

市民病院汚職事件や土地開発公社問題の時は、地労協の事務所に市民の方々がおくいさんを訪ねてこられました。お話を根気強く聞き続け、相談者に親身に寄り添う人です。人との間に壁をつくらず、おばちゃんトークも自然と交わす気さくな人です。

元地労協勤務 金澤栄子

地域おこしに情熱

上六人部生まれ、「やっこさん」まつりを復活

おくいさんは、上六人部生まれ、六人部中学校を卒業後、宮津の水産高校で寮生活をすごし無線通信を学びました。地域おこしの情熱に熱いものがあり海洋への道をたちきり、19歳から福知山で働きはじめました。上六人部の先輩や同級生らと生野神社の秋祭りの巡行「やっこさん」まつりを復活させるなど「地域おこし」に情熱をかたむけます。

京都生協福知山店で農産チーフとして働いている時は、地元産のいちごやトマトを店舗販売し、産直に力を入れました。地域おこしにかかる情熱あふれ、7万7千市民の代表にふさわしい人です。



「やっこさん」祭りを復活させたところのおくいさん(1980年代)

